



片柳中学校だより

片柳

第12号 令和7年2月28日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵551
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

教師になって43年 その3

学びの質的転換をめざす STEAMS 教育、教科横断的学習への取り組み

校長 加藤 明良

寒波もようやく去り、春の気配が感じられるようになりました。2年生自然の教室、生徒一人ひとりの成長が見られ大変充実した3日間を過ごすことができました。そして、3月14日の卒業式、保護者、地域の方、学校に関係するすべての人たちでお祝いしたいと思います。

さて、みなさんはSTEAMS教育、教科横断的学習という言葉を知っていますか。文科省のホームページには「AIやIoTなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められています。STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進しています」と紹介されています。さいたま市では令和4年から全市立小・中学校で、スポーツのSを加えたSTEAMS TIMEを設定し取り組みを進めています。学校の授業と社会が結びつく探究的学習の必要性はすでに40年以上前から求められていましたが、ようやく始まった感があります。

具体的には、1年生がAIやIoTが益々進化する中で未来の仕事について提案、2年生が「かたやなぎエンジン」未来くるワーク体験実施の事業所同士を掛け合わせた新たな事業についての提案、3年生が国際観光都市京都の現代的課題の解決といったテーマで各教科の学びをベースに実社会の課題解決をめざす探究的な学習に取り組みました。この他にも、数学の授業に理科の先生が参加し、二次関数の導入に運動の実験を行うことで理解を深めたり、社会と理科の両方の時間を使ってエネルギー資源について調べ学習を行いました。美術では食品のパッケージデザインを考えたり、学校保健委員会では、給食委員と協力し食と健康をテーマに生徒の実態を調査し、自分でも作れる朝食を提案したりするなど、一つの活動を複数の視点から考えることで新たな価値や提案に結びつけています。学校行事×キャリア教育×STEAMS教育×全教科等という発想です。その集大成として3年生は卒業論文の作成に取り組みました。論文のテーマは自由です。何を書くか、どのように調べまとめていくか、本人次第です。全員の論文要旨をまとめた冊子が間もなく発行予定です。

このように、各教科の学びをベースにその内容を横断する形で、ICTを活用しながら生徒自身が課題を設定し探究していく学習に取り組んでいます。これらの活動を通して、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、他者と協働する力、学びに向かう力などが育成されるものと考えます。

3年生のみなさん、片柳中での学びはどうだったでしょうか。片柳中の3年間の学んできたことに自信を持ってください。そして新たなステージでのさらなる飛躍を期待しています。